

## 山口大学農学部・獣医学部同窓会(青山会)東京支部

### 私の軌跡

母校で学び、各界で活躍された同窓の方々から  
波乱に満ちた、真摯な軌跡を語っていただきます。

深町 輝康

昭和43年卒業(V16)

### 私の半生

私は5人兄弟の4男として福岡県(旧)八女郡水田村の米作り農家に生まれました。中学生の頃柔道に明け暮れる私に、父は「ご先祖から続くこの家や農地は、長兄がすべて相続する。親しくしている知人に大工の棟梁や僧侶がいる、勉強が嫌なら中学を出たら、大工の弟子入りか、比叡山へ行くか?」と言われました。この父の話は怒りや説教ではなく、私の将来を真剣に考えての言葉だったので、当時の私には眼前が真っ白になったような記憶があります。文武両道だと息巻いていた私は、柔道は高2で初段、山口大学獣医学科へ進むことが出来ました。

教養を1年(山口市)で終え、2年次(下関市長府町)からすぐ解剖、生理などの専門の講義が始まりました。解剖学を専攻したのは、木脇先生の講義です。当時、司馬遼太郎の幾つかの長編歴史小説がベストセラーで、特に木脇先生の「薩長の活躍についての話(講義?)が面白かった事」と、「発生学の神秘さ」でした。2年次の夏、牧田先生(新婚)が助手として赴任されました。早速、鬼の特訓(解剖学実習、発生学英語ゼミなど)が始まりましたが、牧田先生は教官というより私には、兄貴のような存在で、卒業後も長くご指導頂くこととなります。お二人の指導者の影響は「歴史好きと負けず嫌い」として、私に受け継がれていると、つくづく今頃感じています。3年の夏、農学部は長府から山口市吉田へ移転しました。就職について、木脇先生から「国の税金で勉強できたのだから、公務員や畜産関係へ進む様に」勧められましたが、私は公務員には向いていないと、外資系の製薬企業を選びました。営業職へ進んだのは研究職より経営に興味を感じていたのかもしれませんが、家内の実家が湯田温泉だったこともあり、里帰り度々帰郷、山口大学(恩師)との交流が生涯にわたり様々な形で続きました。

2年の製薬会社(アップジョン/ファイザー)勤務後、その会社の幹部だった数人の上司に誘われ、米国の医療機器メーカー(アメリカン・ホスピタル・サプライ・コーポレーション“AHSC”、後のバクスター株式会社)の日本進出、立ち上げに参画しました。そこで最初に手掛けたのが心臓血管関係の医療機器でした(人工心臓弁、人工血管、人工心肺装置、心臓カテーテル、心臓ペースメーカなど)。その後、血液ガス分析機、生化学分析機器、血液凝固時間測定機器、大型クライオトーム、手術用手袋、気管内チューブなどたくさんの医療機器の日本への上市に携わりました。特に心臓外科、循環器科、麻酔科は戦後米国へ留学した日本の若い医師たちが帰国し始めたころで、まさに日本の近代医学の揺籃期であり、様々な最新の医療機器の(主に)米国からの導入と相まって、日本の医療レベルは飛躍的に発展しました。3~4時間が限度であった開心術が、我々の導入した膜型人工肺で長時間(7~10時間位の)手術が可能になり、私の父も房室ブロックによる瀕死の状態でしたが、最新の心臓ペースメーカ移植で救命、10年近く長生きできました。

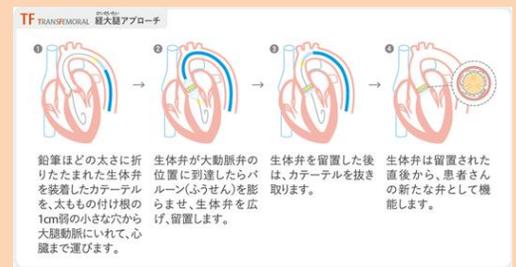
6~7人でスタートした会社は30年後には凡そ1,500人になりました。その間求人活動、面接試験、新人教育、営業システムや販売網構築、支店営業所作りなど様々な業務に携わりました。長年の夢だった米国本社勤務も経験、経営にも参画することが出来ました。山口大学からも幾人かの後輩に入社頂きました。多くの素晴らしい仲間恵まれ、幸せな職業生活でした。

現在この会社の心臓血管部門は分社化独立し、エドワーズライフサイエンスとして活躍中です。経皮的(開胸せず)に人工心臓弁(僧帽弁、大動脈弁)置換術が可能画期的な製品を米国本社で開発、既に日本で多数の臨床例が報告されています

(<https://www.edwards.com/jp/>)。



初期(1970年頃)のシリコンボール人工心臓弁(僧帽弁)



経皮的動脈弁 移植術

(<https://www.heartvalves.com/jp/tavi-trial-registry>)

お世話になった先生方との交流は今もゴルフや年賀状などで続いています。時々届く訃報は、堪らない惜別の辛さでもあります。

54歳の時、バクスター株式会社を早期退職しました。「父の大工か僧侶に」の言葉が、高校、大学進学、そしてまっしぐらの職業生活を駆け抜けた原動力だったのかもしれない、そして多くの方々に巡り合い、勇気を頂きました。感謝しています。苦勞を掛けた家内と、凡そ2年間、旅行、ゴルフなどの充電期間を経て、56歳の時、第2の人生(小動物臨床)を歩むこととなります。

## ☆Hot Tips☆

### ヘロインについて

獣医臨床現場でも、鎮痛目的で、NSAIDsやオピオイド系薬剤が広く使われるようになりました。オピオイドの代表的薬剤であるヘロインとその歴史的経緯などについて簡単に述べます。



ケシの花



ケシの実(坊主)

#### ケシの花>ケシの実>アヘン(樹液)>モルヒネ(抽出)>ヘロイン(半合成)

ケシの実の外側に浅く数条、傷を創り白い液を出させ、数分後に凝固、乾燥させたものをアヘンと言います。原産地は東ヨーロッパ、トルコ、エジプト、インド、中国など。ヨーロッパでは旧石器時代の遺跡からその種子等が発見されていることから、凡そ4,000年前にはすでに栽培されていたこととなります。アヘンはアラビア語で「アフィウン」と呼ばれ、中東から清国へ持ち込まれた時「阿片」と表記されるようになったのだらうと思われます。

アヘンのアルカロイドから、モルヒネを抽出したのは1805年、ゼルテュルナールというドイツ人医師で、眠りの神に仕える(夢の)神「モルフェウス」の名前を取って、モルヒネと命名したそうです。モルヒネの水酸基をエステル化(半合成)して脂溶性を高め、血液脳関門を通過しやすくしたのがヘロインです(フェンタニルは合成オピオイド)。

#### 日本では

古い文献によると、鎌倉後期の僧医、梶原性全(かじわらしょうぜん)の『頓医抄』の中にすでに「罌粟(けし)」の用語が見られます。室町時代には、南蛮貿易によってケシの種がインドから津軽地方(現在の青森県)にもたらされ、そのことからアヘンが別名「ツガル」と呼称されるという伝承があります。天保年間(1830年代)現在の山梨県、和歌山県、大阪府付近などで栽培が普及しました。

#### 阿片戦争(1840-1842)

イギリス東インド会社が(清の陶磁器、絹、紅茶等の)輸入超過の解決策として阿片の輸出を清国へ強要することで勃発しました。香港割譲(1842年)はその後150年以上(1997迄)続くこととなります。

#### ヘロインの功罪

ヘロイン(モルヒネから合成)の名称は、ドイツ語の“heroisch”(英雄の、気高い、壮大な)を語源としています。服用初期には強烈な多幸感になるといいます。しかし習慣性が非常に強く、副作用として、食欲不振、栄養障害、幻覚、呼吸麻痺等、また禁断症状が強く、薬からの離脱が極めて難しい状態になるそうです。ベトナム戦争時アメリカの多くの若者(兵士だけでなく)が多用(乱用)し、撤退の遠因ともいわれていますし、暴力団やギャングの資金源にもなっています。医療用としては安価で使いやすいため、世界中で(特に癌性疼痛に苦しむ)多くの患者さんに使用されていました。日本では1958年「麻薬及び向精神薬取締法」が施行され、厳しい取り扱いが課せられていることは皆様ご承知の通りです。

参考: 図解猛毒植物マニュアル, 和田宏 同文書院、梶原性全とは-コトバンク(kotobank.jp) アヘン戦争とは-コトバンク(kotobank.jp) ヘロイン - Wikipedia)

(編集: 同窓会事務局 深町 輝康)

## 母校便り

獣医公衆衛生学教室の清水と申します。初めて寄稿させていただきます。よろしくお願いたします。

さて、今年の7月号で佐藤晃一教授より報告がありましたように、ナイロビ大学との交換留学がスタートし、初回は4名の学生が参加しました。現地の実習では4名の学生はそれぞれ10人程度からなる実習グループに1人に入れられ、否応なく現地の学生と交流せざるを得ない状況に置かれます。その状態で大学農場での大動物実習、病院での小動物診療、周辺農家への往診などに参加します。野生動物の多さで知られるナイロビですが、実習もかなり「ワイルド」に行われます。教員を含め12-3名ほどの参加者が7人乗りの車に押し込まれ、大学農場や、周辺農家に公道で連れ出されます。検査や治療は一般的なものですが、学生は手先の感覚を磨くため、直腸検査は素手で行います(その後の食事も素手で…)。

大学農場には100匹以上の牛がおり、農家の往診も毎日行なわれ、大動物の診療は山口大学と比較しかなり充実しています。反対に小動物臨床は症例数が少なく、充実度は低い印象です。

このような実習を通じて、参加学生は現地の学生とかなり親密になり、最後の送別会では涙を流す学生がいたほどでした。この事業はこの先2年間3回の交換留学が続きます。この実習を通して山大生とナイロビ大生の交流が活発化し、将来的な日本とケニアの交流に発展することを願っています。

(共同獣医学部 獣医公衆衛生学教室 准教授 清水 隆)



素手で直腸検査を行う山大生。牛は日本のものより小さい。

## OB・OG

### 農芸化学科 プチ同窓会

4月から2度目の単身赴任で上京してきた大塚勝紀さん(土壌:H1入学)の歓迎会を11月28日新宿にて決行しました。タイミングでよく大下徹さん(食化:S63入学)が出張で上京されていたので、大下さんの歓迎会も合同で総勢8名の大宴会となりました。参加者は三古さん(食化:S61入学)、清水さん(食化:S63入学)、真木さん(食化:H1入学)、田中さん(食化:H2入学)、安田さん(食化:H2入学)です(昭和入学が大下さんチーム、平成入学が大塚チームです)。

約30年ぶりの再会もあり、体形の変化などをお互いにいじりあいながらも、家庭、仕事の話を含みつつ、学生時代の話で盛り上がりました。最近ではハラスメントを意識しつつ、言葉を選びながら、飲み会に参加しておりますので、気兼ねない仲間との楽しい時間を過ごすことができました(今回も写真を撮るのを忘れてしまいました)。また、学科は異なりますが、山際君も話題に上がり、彼に関する昔話(なぜか下川も話題に)、家族に自慢した等々話題が尽きませんでした。捲土重来を果たしてもらいたいと一同願っております。

飲み会の翌日、山際君が登壇する福岡県・九州大学イノベーションカンファレンスに参加しました。スタートアップ支援の現状から将来像、親世代の意識改革の重要性まで澁みなく1時間講演しておりました。志半ばでの退任となりましたが、これからも同窓生として応援していきましょう。

(平成5年卒業(C23) 中嶋 久士)



写真提供:山際事務所

私は2007年卒業生の森と申します。現在は東京都あきる野市にて小さな動物病院の院長をしています。元々名古屋育ち、大学は山口大学で、東京の都心の方で勤務医をしていた私が、あきる野市で動物病院をしているのは、動物病院の事業承継がきっかけでした。

引越してきて間もなくは、電車の本数は少なく、周りは山と川に囲まれており、かなり不便を感じましたが、自動車を購入してからは、高速道路を用いれば1時間以内に山や海、都会に出られ、山口での学生時代を思い出し、色々な所にドライブに行っています。今住んでいる家の周囲ではキャンプやバーベキュー、川遊びや山登りをしている人がコロナ禍でも沢山訪れ、休日には観光客がやってきます。そんな中で過ごしていると、以前はインドアな趣味が多かった私なのですが、最近では山登りやバーベキュー、写真など、アウトドアを楽しむようになってきました。

丁度新生活のスタートが、新型コロナ感染症が流行する直前だったのですが、最近ではコロナ禍を経て、ウィズコロナの時代になってきています。大分行動制限も抜けてきて普通の生活を取り戻しつつある昨今ですが、皆様も健康にお気をつけて、人生を楽しんでください。

(平成19年卒業(V53) 森 貴司)



## 〇ボタンコーナー

### わたしの徒然

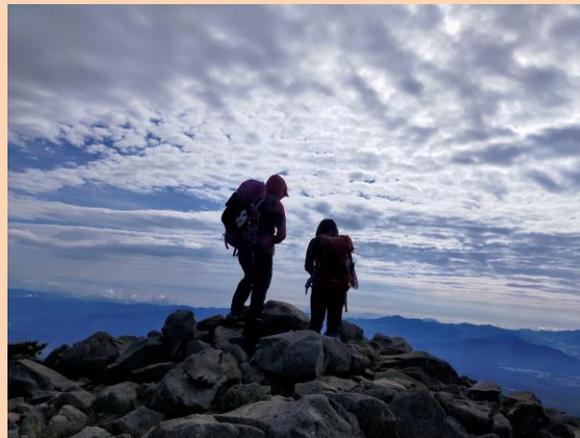
Vol.9にご寄稿の根目沢美帆さんよりボタンを受け取りました、2000年3月農学部獣医学科卒業の奥野志帆(旧姓 広田)です。

大学受験時に「生物系の勉強が出来て面白そうだから」という、ふわっとした理由で獣医学科を選びました。獣医師になりたいという強い思いはあまりなく、大学にいる間は臨床に進むつもりもありませんでした。どちらかというと、研究職への憧れの方が強かったかもしれません。

卒業後は数年間、製薬会社で精神神経疾患(うつ病や統合失調症等)の創薬研究をやっていました。そのまま研究職を続けるつもりでしたが、それが色々あって、今は小動物臨床をやっています。大学時代に、もっと身を入れて勉強や実習に取り組んでおけばと悔やまれます。

最近では、都心によく出かけています。この度の感染症蔓延の影響で、美術館や博物館が入場規制をするようになり、混まずに鑑賞できるようになったためです。ジャンルは様々に見ているのですが、現代アートと日本絵画がお気に入りです。他にも何か一つに凝ることが無く、登山、スキー、スキューバダイビング、空手、読書、映画鑑賞、美術鑑賞、観劇等々をずーっと、まんべんなく楽しんでいます。特段これが得意だとは言えないけれど、それぞれを楽しめています。一つの事にこだわり続けられるタイプでないのも、研究職よりも、現在の一次診療施設でのジェネラリストの方が向いていたのかもしれない。

(平成12年卒業(V46) 奥野 志帆)



メール配信にご協力をお願いいたします！

皆様のメールアドレスを事務局まで。

BCC配信ですのでアドレスは公開されません。また、同窓会ホームページからもご登録できます。

<https://yamaguchiagrivet.wixsite.com/tokyo>



会長 深町 輝康(V16,S43卒) : [smile-vet@chic.ocn.ne.jp](mailto:smile-vet@chic.ocn.ne.jp)

事務局 桑野 昭(V21,S48 卒) : [kuwa5ayt@green.ocn.ne.jp](mailto:kuwa5ayt@green.ocn.ne.jp)

久保田 徹(C2,S47卒) : [tkubota39@m7.gyao.ne.jp](mailto:tkubota39@m7.gyao.ne.jp)

吉田 恵子(V48,H14卒) : [keicho@mth.biglobe.ne.jp](mailto:keicho@mth.biglobe.ne.jp)

平川 由佳(V53,H19卒) : [yspiyopiyo@yahoo.co.jp](mailto:yspiyopiyo@yahoo.co.jp)

## 編集後記

いかがお過ごしでしょうか。新型コロナウイルス感染者が少し減ったかと思いきや、またまた再燃しつつあります。季節は冬を迎え、紅葉や落ち葉がきれいです。今回は秋の終わりをイメージしたレイアウトの編集に努めました。(事務局 平川)